

ウェアラブルセンサを用いた繁殖管理システム

受胎率の低下と分娩間隔の延長は、牛の生産性を阻害するため、大きな問題となっています。牛の腔内に長期間留置可能な腔内センサや尾根部の体表温を計測する体表温センサを活用して、発情が見つけれない牛でも適期を判定して授精したり、事前に分娩を予知することができれば、人工授精実施率や受胎率が向上したり、事故のない安全な分娩が増えることが期待されます。

